

「排泄の援助」に関わる内容を効率的に学ぶためのオンライン学習支援動画の活用【看護/基礎看護】

1 はじめに

近年、社会では実践的な思考力、並びに高度かつ専門的な知識・技術を備えた医療行為ができる看護師が求められている。その一方で、本校看護科の生徒の傾向として準備性や情報活用能力、統合する力の不足が挙げられる。これらの乖離を埋めるため、本実践では従来教室で行っていた内容を、ICTを活用して家庭学習として行い、準備性の不足を解消する。加えて多様な考えをもつ他者と課題解決に向けたグループワークを行うことで、統合する力の育成に繋がるのではないかと考え、オンライン学習支援動画を活用した授業について検討・実践を行った。

2 年間指導計画（基礎看護3単位のうち看護の共通技術及び日常生活の援助、診療に伴う援助2単位）

4・5・6月	8・9月	10月	11月	1月	2・3月
第2章 日常生活と看護 第3節 排泄の援助	第3章 診療と看護 第1節 フィジカルアセスメント 第7節 救急処置	第2章 日常生活と看護 麻痺のある患者の 寝衣交換	第3章 診療と看護 第6節 無菌法と院内 感染の予防	第3節 与薬	第4節 巻法・保温 創傷処置

3 単元名

第2章 日常生活と看護 第3節 排泄の援助 第2 排泄の援助と看護者の役割

4 単元目標

- (1) よりよい日常生活の実現に向け、排泄の援助と看護者の役割について関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。
- (2) 身近な事例から知識と技術の統合化を図るとともに、安全で安楽な排泄の援助方法について根拠を踏まえ自分の考えを表現することができる。
- (3) 排泄のメカニズムを踏まえ、対象に応じた自然排泄の援助が実施できる。
- (4) 羞恥心やプライバシーに配慮した排泄援助の必要性について理解できる。

5 単元の指導計画（15時間）

- (1) 排泄のメカニズムと正常範囲の観察…………… 1時間(本時1/3)
- (2) 排泄の援助と看護者の役割（便器・尿器の与え方を含む） …… 5時間(本時2/3, 3/3)
- (3) 排泄障害と看護（おむつ交換・陰部洗浄を含む） …… 6時間
- (4) 浣腸（摘便を含む） …… 3時間

6 本時の目標

- (1) 排泄の日常生活援助に関わる基本的な知識を踏まえ、対象に応じた安全で安楽な援助方法を適切に判断し、看護者の役割について考えを深めている。
- (2) 近年の医療現場の実際を踏まえて排泄の援助と感染対策を関連付けながら課題を見出し、その解決策を考えている。

7 授業展開

<p>家庭学習</p>	<p>学習支援動画*の視聴 対象に適した排泄援助の方法の提供について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般的な排泄行動と排泄援助方法を考える視点について 対象の自立を踏まえ、患者に適した援助方法の選択について 対象の尊厳を損なうことなく排泄援助を行う必要性について 排泄援助を実施する際のアセスメント項目について <p>* 『排泄の援助』動画（外部ページに移動します）</p>
<p>導入 (10分)</p>	<p>授業の概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン学習の進捗状況を確認する。 本単元の目標を理解し、学習の見通しをもつ。
<p>展開1 (40分)</p>	<p>講義</p> <p>1 排泄のメカニズムとその意義</p> <ul style="list-style-type: none"> 排便・排尿のメカニズムについて 排泄に関わる生理的・心理的・社会的・文化的な意義について 看護者の役割について <p>ワーク（事例学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> 排泄に伴う課題について、自己の体験を基にグループで話し合い、プライバシーに配慮した看護介入の必要性について理解する。 他者との関わりを通して、対象の羞恥心や不快感といった問題を身近なものとして捉える。
<p>展開2 (50分)</p>	<p>講義</p> <p>2 排泄援助に用いる看護用具とその特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 排泄行動に伴う用具（便器・尿器・ポータブルトイレ等）の利点と欠点及び排泄後の使用物品の取り扱いについて <p>ワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習で学んだ既習内容（排泄援助方法を考える視点）と排泄援助で用いる看護用具の利点・欠点から、対象に応じた排泄援助の方法を関連付け、対象に適した排泄の援助方法を選択する。
<p>展開3 (30分)</p>	<p>講義</p> <p>3 ポータブルトイレでの排泄援助の方法と標準予防策（スタンダードプリコーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ポータブルトイレでの排泄介助の一連の流れについて 排泄援助に伴う標準予防策（スタンダードプリコーション）と注意が必要な病原微生物について <p>ワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染対策としての標準予防策と感染力の高い病原微生物による接触感染と関連付け、院内感染を予防するための手段について自分の考えを表現する。
<p>まとめ (20分)</p>	<p>本時の授業を振り返り、小テスト（練習問題）に取り組む。</p>

8 評価

排泄の日常生活援助に関わる基本的な知識を踏まえ、対象に応じた安全で安楽な援助方法を適切に判断し、看護者の役割について考えを深めている。	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
	生理的・心理的・社会的意義の側面から課題を見出し、身近な問題として捉えるとともに、プライバシーに配慮した看護介入の必要性を踏まえ、看護者の役割について、考えを深めている。	生理的・心理的・社会的意義の側面から課題を見出し、安全・安楽な看護援助方法を適切に判断し、看護者の役割について考えを深めている。	自己の体験を基に考えることができる。

近年の医療現場の実際を踏まえ、排泄援助と感染対策を関連付けながら課題を見だし、その解決策を考えている。	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
	排泄の援助と感染対策を関連付けながら課題を見出し、対象にとって適切な排泄援助について具体化するとともに、近年の医療現場と院内感染予防の重要性について考えている。	排泄援助と感染対策を関連付けながら課題を構想し、標準予防策の重要性について考えている。	排泄援助と感染対策について関連付けや標準予防策の重要性に対する考えが不十分である。